

かわさき区の宝物シート

宝物No.	こーひーよせ
31-2	かうひい寄席 思い出

エリア	—	シーズン	—
	—	日時	—

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎グランドホテル（閉店）
問い合わせ	—
TEL	—
FAX	—
E-mail	—
URL	—
交通	—



基礎情報

■昭和61年(1986)に発足し、川崎市役所のすぐ隣、川崎グランドホテルで隔月開催されていた地域寄席。平成24年(2012)、会場である川崎グランドホテルの閉店に伴い、惜しまれながら26年の幕を閉じた。

由来・エピソード

※現在「かうひい寄席」は、開催されていません。(以下は、平成22年度の「かわさき区の宝物シート」の情報です。)

■川崎出身で落語協会所属の落語家・初音家左橋師匠が必ず一席うかがう。毎回、前座さんにつづいてニツ目さん、コーヒーブレイクの「中入り」をはさんで二人の真打ちが熱演した。漫才など「色物」が加わることもあった。

■寄席演芸専門の情報誌「東京かわら版」に出演者の組み立てをお願いしていた。あとはすべて、地元の落語好きな仲間達の運営。プログラム作成は織戸さん、広報と金庫番は福嶋さん。寄席の看板である席亭は酒井靖恵さん。手づくりの運営が好評でこひいきさんから根強い人気を集めていた。椅子席なので気楽な姿勢で嘶を堪能できたのも魅力。

■耳の肥えたお客さんも多く、落語家さんからもやりやすい寄席と評判をとっていた。

■かうひい寄席の誕生は、今は閉店した老舗喫茶店「小宮珈琲店」であった。オーナーが店内で楽しい催しを考え、地元の有志と地域寄席を始めた。平成5年11月までの7年間、88回で幕を閉じた。

■しかし、酒井席亭の求心力は世話人を集めた。翌年3月には89回目が開催された。場所はグランドホテルが快く引き受けてくれた。会場をつくって終わったあとに翌日の朝食のためにテーブルと椅子を並べ直す。仲入りにコーヒーを用意する。大きな力になっていた。

■復活のもう一つの力は三笑亭夢三四さんだった。左橋師匠（当時はニツ目金原亭小駒さん）と交代で出演していた夢三四さんは病に倒れ、病床からも続けることを強く望んだ。残念ながら再開後の高座に上がることはできなかった。

■「旦那衆」という応援団があった。年会費1万円で招待券3枚をお渡ししていた。木戸銭が2000円なので残りは運営費の重要な部分を占めていた。開催当日の受付には旦那衆の木札が飾られた。旦那は稲毛神社市川宮司。

■原則、奇数月の第二火曜日に開催されていた。（午後6時開場・午後6時半開演）

補足・その他

関連シート

※「思い出」のシートでは、今は無くなってしまいましたが、後世に語り継いで行きたい宝物を紹介しています。
 「かわさき区の宝物」とは？ <http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html>